

ふちゅう歴史散歩

Vol.113

備後国府跡の 出土品『灯明皿』



備後国府跡出土の土器（平安時代）
内側や口の部分に黒い煤が付いており、灯明皿として使用された可能性があります。



灯明皿 火を灯した痕跡
口や内面の煤やタール状の炭化物を分析すると、油の種類や灯芯の素材が分かります。

あかりを灯す道具の一つに灯明皿があります。小さな素焼きの皿に油を入れ、灯芯と呼ばれる麻や綿、イグサの芯などを浸して火を付けて使いました。燃料の油はエゴマやゴマなどの植物の種子を搾った植物油が主で、採油量が少なく高価でした。灯明皿が使われ始めたのがいつ頃からははっきりしませんが、7世紀前半ごろの仏教伝来以降と考えられています。それ以前は、木などの自然物を燃やして明かりにしていました。

灯明皿の内側や口の部分には、火を灯すことで出る煤やタール状の炭化物が遺ります。備後国府跡でも、灯明皿として使用したと考えられる土師器の小皿や杯が出土しています。

灯明皿に火を灯したときの明るさは、ライターの炎程度のものでした。電灯のない、夜は暗いのが当たり前の中で、人々は、灰かでも辺りを照らす灯に、安心感を感じたでしょうし、仕事や暮らしも変わっていったことでしょう。

—市民レポーターが府中の魅力を投稿します—

ふちゅう Sai 発見!

高校生編 その70



投稿者（文と写真）
上下高校3年
野球部主将
永地 航大くん

野球は楽しい

野球は楽しい。試合でヒットを打てたら、アウトが取れたら、チームが1つになったら最高に楽しい。だが、楽あれば苦あり。苦がないと楽はない。私はこの夏、本当にそう思った。この夏の大会までに一番苦労したことは、チーム全体が一致団結することだった。新型コロナウイルスの影響で、チーム全員での練習は6月からだった。練習をしても動きが合わず、練習試合でもかなりの点差で負けた。だから、ミ



ーティングで声を出そうと呼びかけた。3年生中心に声が出始め、チーム全体としても明るい雰囲気になってきた。「これならいける」と思った。初戦を突破し、2回戦へ進出したが結果は負け。だが、その試合が今までで一番楽しい試合だった。一番声が出ていたし、ベンチの盛り上がり半端なかった。何よりみんなが笑顔で楽しんでいた。色んな人の支えがあつての最高の試合だった。感謝の気持ちを忘れずに、いつか私も楽しむ側から支える側になり、そのことをまた楽しむことができたらいいなと思う。

府中市RCCラジオ番組「府中に夢中！」

毎週月曜日16:30~16:45 (そのうちの5分間) RCCラジオ (1530KHz)

今月の放送日 9月7日(月)・14日(月)・28日(月)

府中市のマチ・ヒト・モノに注目し、聞いて楽しく、府中市を感じられる内容をお届けします。

2年目に
突入!

ラジオでも
聴ける!

公式SNS
facebook

スマホアプリ
radiko (ラジコ)

府中市メール配信
サービス

